

# 【複数年度(1年目)】賑わいのある道路へ～限られた道路空間の再構築～(山梨県)

## 1. 実験概要、留意すべき項目

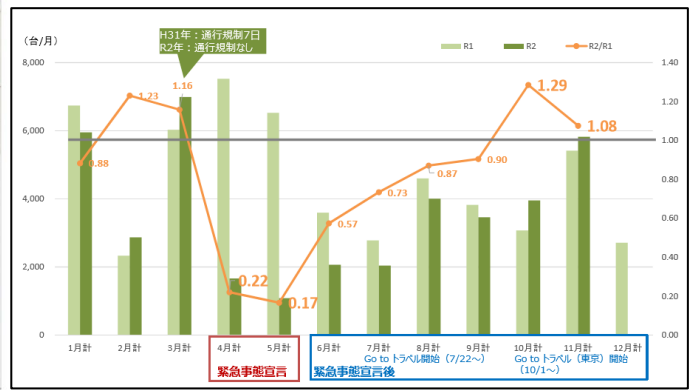
- ・ 歩車一体舗装、クランク、狭さを設置し、観光地における歩車共存の検証を行うとともに、GPSやAIカメラを用いてデータを取得して商店街への回遊効果が高い仕組みを検証する。
- ・ 歩行者の快適性や歩車共存の評価手法の検討、沿道の観光施設と協働した歩車共存空間の構築について、全国的に周知・推奨すべき取組みとなり得ること。

## 2. 今年度の調査内容、調査結果

- ① 実施計画の策定(検討会の運営)  
⇒検討会を3回開催し、実験内容は概ね了解を得た。
- ② 回遊性を高める効果的な情報発信のための基礎情報把握  
⇒ヒアリング、現地調査結果から、周遊マップ(案)を作成
- ③ 駐車場利用状況の把握  
⇒緊急事態宣言発令中の4、5月は前年の2割程度
- ④ 歩車共存空間構築の有効性  
⇒スムーズ横断歩道は、速度抑制効果が期待できる  
⇒狭さくは、一方通行規制時の交通状況の変化を確認後に設置箇所等を判断



周遊マップ(案)



駐車場利用台数(令和元年、令和2年)

## 3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
回遊性を高める効果的な情報発信	商店街への回遊性の向上、効果的な情報提供について、アプリ位置情報、アンケート調査、駐車場の入出庫時間履歴を用いて検証
駐車場満空情報の提供	AIカメラを用いた映像解析調査により、駐車場利用状況を検証
交通誘導看板の設置	AIカメラを用いた映像解析調査により、県道町道の交通分担率、車両のすれ違い頻度を検証 ETC2.0プローブデータより、車両の挙動を検証
歩車一体舗装	AIカメラを用いた映像解析調査により、歩行空間の快適性、安全性、車両速度の変化を検証
スムーズ横断歩道(立体ハンプ)の設置	AIカメラ、ETC2.0プローブデータ、アンケート調査により、歩行空間の快適性を検証
狭さくによる休憩スペースの確保	AIカメラにより、歩行者散策時の快適性、車両速度の変化を検証

## 4. 今後のスケジュール

- 令和3年～9月:実験計画立案
- 令和3年9～10月:社会実験実施
- 令和3年9～12月:画像分析、GPS分析、アンケート分析
- 令和3年11～12月:ETC2.0分析
- 令和3年12月～令和4年1月:結果とりまとめ、報告書作成

## 5. 意見と検討、対応方針

- 今年度の有識者の現地視察は、令和3年1月に予定していたが、緊急事態宣言の発令に伴い延期となり、3月18日に実施予定
- 実験開始前に意見を伺い、対応方針を検討し、実験を実施する予定。

## 6. 評価

- 令和2年度に検討会を3回開催し、実験の内容は概ね了解を得ており、令和3年度の実験メニュー、実験内容、スケジュールの検討ができているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。